第4章 政策概要

産業経済部門【経営方針:創造性豊かな産業のまちづくり】

政策 1. 農業の振興

政策がめざす姿

- 農業の担い手・後継者により活力ある持続可能な地域農業が行われています。
- 農業生産基盤の整備が進み、農業経営の安定並びに優良農地の保全が図られています。
- 農地の維持管理及び耕作放棄地の防止が図られ農村環境が保全されています。
- 手取り収入を増やす稼げる農産物の生産が進み、産地ブランド化がなされています。
- 有害鳥獣による農作物への被害が減少し安心して農業が行われています。

現状

新たな担い手としての集落営農法人づくり、日本型直接支払い制度の活用による 農地維持活動の下支えと耕作放棄地化の防止、天草産農畜産物のブランド化、産地 維持のための国県事業はもとより市単独予算による積極的な施策展開が産地として の生産量維持、営農意欲の継続、自然災害被災後の再建意欲につながっています。 地理的・地形的に不利な中山間地域内にある農地を、将来にわたって適切に維持 管理できるように、農家に対して、本市農業農村整備事業管理計画に係る事業推進 (合意形成)を図りながら、国庫補助事業(新規及び継続事業)としての事業着手から 完了を目指しています。

課題

2015年の農業センサスで、農家数、農業就業者数の減少率が5年前と比較し急激な減少と発表され、このままでは10年後の農業者減、産地維持のみならず、優良農地維持や農村集落のコミュニティ機能維持さえも困難となるような状況が懸念されています。

天草地域は、中山間地域に位置付けられる水田主体の農業地帯であるが、その大部分が小区画農地であり、農業従事者の高齢化が進む中においては、後継者不足や耕作放棄地の増加が懸念されています。

施策計画 I 持続可能な地域農業の推進

計画内容

農地と担い手の将来像である「人・農地プラン」を引き続き推進し、中心経営体である認定農家等への農地集積を進め、農業経営の効率化・安定化を図ります。また、新規就農者の確保を強力に進め、自立、定着までの決め細やかなサポート体制を構築するとともに、集落営農法人の設立、経営安定化や市内外企業の農業参入を支援し持続可能となる地域農業を推進します。

成果指標名	単位	当初実績値 (2013年度)	実績値 (2017年度)	前期設定目標值 2022年度目標値
主業農家のうち認定農業 者の割合	%	67.0	85.3	70.0 85.0
新規農業就業者数(累計)	人	0	10	120

<関連計画>

天草農業振興地域整備計画

農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想

施策計画 Ⅱ 農地基盤整備率の向上、農業施設の長寿命化

計画内容

中山間地域の農地基盤整備を加速させるとともに、農地中間管理事業に基づく農地整備事業により整備率を向上させ、担い手農家や農業参入希望企業等への優良農地供給を図ります。また、団体営農業農村整備事業の活用により、水田の畑地化、汎用化を促進させます。既存農業施設の機能診断を行い、診断結果に基づく計画的な補修を実施し長寿命化を図ります。

成果指標名	単位	当初実績値 (2013年度)	実績値 (2017年度)	前期設定目標値 2022年度目標値
農地整備率	%	43.0	43.3	45.0 47.0
長寿命化に伴う排水機場 の改修工事件数	件	13	18	- 44

施策計画 Ⅲ 農村環境の保全・活用と集落機能の維持

計画内容

家族農業やそれを支える家族、地域の人々(小農)が、営農を継続できるよう日本型直接支払交付金を活用して、協定集落への加入促進、協定集落が行う農地や農道、用排水路等の維持管理のための共同取組み作業を下支えします。また、復旧可能な耕作放棄地については、基盤整備事業と合わせた解消活動など、地域ぐるみの取り組みを支援していきます。

成果指標名	単位	当初実績値 (2013年度)		前期設定目標值 2022年度目標値
農用地面積に対する日本型直接支払制度対象面 積の割合	%	46.4	44.9	62.7 50.0

施策計画 Ⅳ 手取り収入を増やす稼げる農産物づくり

計画内容

手取り収入を増やす稼げる農作物作りを進め、デコポンや天草黒牛のブランド化、 天候に左右されない安定した生産を可能にする施設園芸、更には、温度、湿度、二酸化炭素などをコンピュータ制御する高度環境制御型栽培システムの導入を支援し、農家の手取り収入を増やす稼げる農作物づくりを推進します。

成果指標名	単位	当初実績値 (2013年度)		前期設定目標値 2022年度目標値
農畜産物の販売高	億円/年	48	48	49 48

<関連計画>

天草市肉用牛生産近代化計画

施策計画 V 有害鳥獣対策の推進

計画内容

農業被害軽減として、地域ぐるみでの勉強会の開催、防護柵等への設置補助を行い、守れる集落・守れる田畑を推進します。また、狩猟免許取得やわな購入に補助を行い、捕獲による被害軽減を図ります。特に被害が大きいイノシシ対策として、被害農家が積極的に加害獣の捕獲に関与できる組織の構築を推進するとともに、捕獲した個体の有用な資源としての活用に対して支援を行います。

成果指標名	単位	当初実績値 (2013年度)	実績値 (2017年度)	前期設定目標值 2022年度目標値
被害面積	ha	21.8	16.8	– 12.8

<関連計画>

天草市鳥獣被害防止計画

- 農村集落の将来を積極的に話し合い、農地を守り、次世代へ引き継ぎます。
- 安全 安心な地元農畜産物を積極的に購入します。

産業経済部門【経営方針:創造性豊かな産業のまちづくり】

政策 2. 林業の振興

政策がめざす姿

- 持続的な森林施業が行われ優良な天草産材が育成され、林業後継者も育っています。
- ・木材の健全な成長に欠かせない間伐作業が計画的に行われ、その間伐材を有効に利活用しています。
- ・荒廃した森林を地域住民、森林所有者等が協力して保全管理を行っています。

現状

天草市の森林は46,174haと全体面積の約67%を占めており、そのうち人工林の割合が43%を占めています。現在、本市の林業動向は、木材価格の低迷に加え、林業経費の上昇・大手メーカーの進出などの影響により木材需要が減少し、林業生産活動が低迷している状況にあります。このようなことから、後継者不足による林業従事者の高齢化が進み森林施業が放棄され、健全で良好な森林の維持が心配される厳しい状況となっています。

課題

計画的な森林施業を行っていくため、天草地域森林組合と協力して森林経営計画の策定を進めていますが、森林所有者の判明や相続調査などの問題もあり、所有者情報の提供などにおいて関係機関と連携・協力していく体制づくりが必要です。

また、林業従事者不足が深刻な状況にあり、市としても新規林業就業者育成事業を 創設し現在2名認定されご活躍中ですが、さらに幅広くPRし人材確保に努める必要 があります。

なお、平成31年度から森林環境譲与税が交付される見込みであることから、更なる 取り組みも進める必要があります。

施策計画 I 適正な森林整備を推進し健全な森林を維持

計画内容

「森林整備支援交付金事業」と平成29年度に導入した「森林GISデータ(地理情報システム)」を上手く活用し、適正な森林経営計画を策定することで、良質な木材・森林をつくるために欠かせない間伐や枝打ちなどの作業が計画的に行われ、優良な天草産材の育成と健全な森林の維持を図ります。

また、新規林業就業者支援事業により、担い手の確保、定着のための経営安定化 を支援し地域林業を推進します。

成果指標名	単位	当初実績値 (2013年度)		前期設定目標値 2022年度目標値
人工林面積のうち適正な 施業が行われる面積	ha	j	6,717	6,500
新規就業者数(累計)	人	ı	2	40

<関連計画>

天草市森林整備計画

施策計画 Ⅱ 間伐等を促進し林業資源の利活用を推進

計画内容

天草地域森林組合等関連団体と連携し、スギやヒノキ等の間伐を計画的に推進していくために「間伐等森林整備促進事業」や、間伐材の流通にかかる経費を助成する「くまもとの森利用最大化事業」を推進し、間伐材の安定供給を図ります。

成果指標名	単位	当初実績値 (2013年度)	実績値 (2017年度)	前期設定目標値 2022年 度目標値
森林間伐材流通量	m3	ı	3,530	3,500

施策計画 Ⅲ 広葉樹等保全活動と資源利活用の推進

計画内容

荒廃して森林の持つ多面的な機能が発揮できなくなった森林を、地域住民が中心となった組織(活動組織)が実施する「森林・山村多面的機能発揮対策事業」を推進し、地域の森林の保全管理等や広葉樹・雑木を含めた森林資源の利活用を図ります。

成果指標名	単位	当初実績値 (2013年度)	実績値 (2017年度)	前期設定目標值 2022年度目標値
森林保全活動団体数	団体	0	3	10

- 新築、増改築時に天草産材(認証材)を活用します。
- 事業者は積極的に天草産材を利用するとともに、雇用拡大に努めます。

産業経済部門【経営方針:創造性豊かな産業のまちづくり】

政策 3 水産業の振興

政策がめざす姿

- ・稚魚の放流や中間育成体制が進み、水産物の水揚げが維持されています。
- 養殖漁業の収益性が向上し経営が安定しています。
- 漁港漁場が整備され多様な漁業活動が営まれています。
- ブランド化が図られ魚価が向上しています。
- 新鮮で安心安全な水産物の安定供給が行われています。
- 学校給食に季節ごとの地魚料理が取り入れられるなど魚食の普及拡大が進んでいます。
- 資源水準に見合う適正な漁業後継者が増えたことで、漁村集落が活気づいています。

現状

依然として漁獲量の動向に増加傾向は見られず、魚価の低迷も続いています。 さらに燃油も高止まりしていることから、漁業経営は厳しさを増している状況にあります。魚類養殖業においては、生産量は近年やや増加傾向にありますが、餌料価格の高騰、魚価の低迷により経営は厳しい状況にあります。

漁業就業者数については減少傾向に歯止めがかからない状況であり、さらに高齢化も進んでいます。

また、漁場については一部に漁業者の取り組みにより藻場が回復傾向にある漁場が見られるものの、全体的には磯焼け・サンゴ化は拡大傾向にあり、産卵や育成場となる藻場が減少している状況にあります。

課題

種苗放流による水産資源の維持・拡大を図ってきましたが、漁業生産量を維持・ 増加させるためには、更に、放流効果を高めるための放流方法、藻場造成の取り 組みについて漁協等関係機関で連携し推進していく必要があります。また、漁業 就業者の確保が喫緊の課題となっています。

漁港漁場においては、施設の機能を適正に維持するために必要な保全対策工事、施設の定期的な点検等を実施するための費用の確保が課題となっています。

施策計画 I つくり育てる漁業と資源管理型漁業の推進

計画内容

水産資源管理のため、稚魚の放流や藻場の造成等漁業者自らによる資源管理を行っています。今後も、種苗の放流や藻場造成等による水産資源の維持・増大を図りながら、新たな放流対象魚介類の調査や漁業者自らによる資源管理を推進する他、新たな養殖の試みを支援するつくり育てる漁業の充実を図り、漁業所得の向上に繋げます。

成果指標名	単位	当初実績値 (2013年度)	実績値 (2017年度)	前期設定目標值 2022年 度目標値
水産物の漁獲量	t/年	14,397	13,948	14,397 1 4,397
海面養殖業の生産量	t/年	14,358	16,678	14,358 1 6,678

施策計画 Ⅱ 漁港の機能保全と適正な管理

計画内容

漁港の施設整備については、利用者の安全性、利便性を向上するため、浮体式 係船岸等の整備を中心に行っています。今後は、施設の機能を適正に維持してい くため、保全対策工事を実施し施設の長寿命化を図ります。

成果指標名	単位	当初実績値 (2013年度)	実績値 (2017年度)	前期設定目標値 2022年 度目標値
機能保全対策済施設数	施設	ı	0	26

施策計画 皿 漁業経営の安定と後継者育成

計画内容

漁船漁業については、従来の漁獲して水揚げする漁業形態に加え、ヒトエグサやマガキ等の養殖、加工・販売を組み合わせた複合型漁業経営の推進により、漁業経営の安定を目指します。

養殖漁業については養殖魚種の転換や陸上水槽による海藻養殖等先進的な取り組みを推進するなど稼げる水産物づくりを進めます。

また、魚類養殖については継続して赤潮調査・魚病診断に取り組み、ICTを活用した広域の水質等のデータを効率的に収集・公表するシステムの開発と合わせて赤潮発生状況の適切な把握と予察に役立てるとともに、漁協等が取り組む漁場環境改善対策を支援し、漁業被害の軽減を図ることで経営の安定を目指します。

引き続き、漁協等関係者との連携により後継者育成の支援体制を整備することで新規漁業就業者の確保対策に取り組みます。

成果指標名	単位	当初実績値 (2014年度)	実績値 (2017年度)	前期設定目標值 2022年度目標値
新規漁業就業者数(累計)	人	0	8	10 45

- 市民は、安心安全で新鮮な地元水産物を購入します。
- 事業者は、沿岸漁業資源を増やす取り組みや海を資源とした新しい事業に取り組みます。
- 市民は、海の環境を守るため、未処理の家庭排水を流さないよう努力します。

産業経済部門【経営方針:創造性豊かな産業のまちづくり】

政策 4 商工業の振興と多様な働く場の創造

政策がめざす姿

- 元気な中小企業や新規の起業者が増え、雇用が増加しています。
- ・企業誘致等による新たな「しごと」の創出により、雇用機会が拡大しています。

現状

経済センサスによると、市内の事業所数は、平成18年に5,592事業所(民営事業所のみ)あったものが、平成28年には4,831事業所となり、10年間で761事業所が減少しています。商工会議所・商工会の会員数については、平成21年から平成26年まで、平均して年間60社程度減少していましたが、平成27年以降は、年間10社程度の減少数となっています。

有効求人倍率については、近年、熊本県全域が上昇傾向にあり、平成29年度の天草管内の平均倍率も1.12となっており、雇用環境の改善が見られます。

また、熊本県下の事業者で後継者がいないと回答した60歳以上の経営者が23.6% となっており、事業承継支援を必要とする中小企業者の実態は更に増加すると考え られます。

課題

少子高齢化が進み、生産年齢人口の減少に伴う、働き手の確保が課題となっている中、Ama-biZ(アマビズ)と商工関係団体の連携した支援による起業創業や地場企業の活性化により雇用の場が多く生まれ、有効求人倍率が1.0を超えて推移しているが、一方で、「求人するが人が集まらない」、「働きたい職種がない」というミスマッチが起きており、働く場所は増えたが雇用に結びつかないという状況が生まれています。

また、新規の高校卒業者の地元就業率も、年々低下傾向にあり、いかに地元企業への就職につなげるか対策が必要となっています。

施策計画 I 地場企業等の活性化を支援

計画内容

新規の起業創業や地場企業が行う設備投資、IoT、AIを活用した生産性の向上など経営改善に向けた取組みに対して、Ama-biZ(アマビズ)や商工関係団体等との連携強化による相談支援体制の充実を図るとともに、効果的な補助金の活用等により、地場企業の活性化を進めます。

また、事業承継支援機関等との連携により、地場企業の円滑な事業承継に向けた支援に取り組みます。

成果指標名	単位	当初実績値 (2014年度)	実績値 (2017年度)	前期設定目標値 2022年度目標値
商工会議所・商工会の会 員数	件	2,603	2,579	- 2,567

施策計画 Ⅱ 企業誘致等による働く場の創造

計画内容

多様な働き方のできる職場や、若者が魅力を感じる職場など、「働きたい場所」を増やすため、熊本県や企業誘致関連団体等と連携して、外部企業の情報収集に努めるとともに、本市の企業誘致(サテライトオフィス誘致)施策等の情報発信や企業訪問による誘致活動を進めます。

また、若年層やUIJターン者に「選ばれる事業所」を創出するため、事業者、経済団体、商工団体、教育機関及び、行政機関等の連携を強化し、労働条件の改善など雇用環境の整備や、地場企業の情報発信力の強化、求職者とのマッチング機会(合同企業説明会等)の創出等、地場企業への就業の促進を図ります。

成果指標名	単位	当初実績値	実績値	前期設定目標値
八木 11 宗 1		(2013年度)	(2017年度)	2022年度目標値
新規学卒者の地元就職率 (就職者数)	%-人	J	17.1 (49)	- 31.2(94)
第2新卒者の地元就職者数 [※]	人	=	120	144

^{※「}第2新卒者の地元就職者数」とは、学校等を卒業して一旦天草島外で就職したが3年以内に天草管内の 企業に転職した人数

- 起業創業や企業の経営改善を目指す人は、Ama-biZ(アマビズ)や商工関係団体等を積極的に活用します。
- 地場企業は、中高大学生のインターンシップ受入れや企業PRを積極的に行い、 地元への就職を促進します。
- 市民は、地場企業への関心を高め、就職を応援します。

産業経済部門【経営方針:創造性豊かな産業のまちづくり】

政策 5. 地産地消・地産他消の推進

政策がめざす姿

- 6次産業化への支援体制が整えられ、地域資源を活用した多様な商品が開発されています。
- 天草陶磁器の窯元が増加し、「陶磁器の産地化」が加速しています。
- 農水産物や加工商品等の戦略的な販売、供給及び流通体制が整備されています。
- 市内で生産される産品の域内消費が増え、各産業の所得向上及び雇用維持、拡大につながるなど地域経済の好循環が生まれています。
- 魅力ある個店の取り組み等が行われることにより、商店街の空き店舗が減少し、 賑わいを取り戻しています。

現状

市内の事業者が天草の地域資源を活用して新たに加工・流通・販売等に取り組む場合に必要な機械・設備等導入及び新商品開発、販路開拓などに6次産業化推進事業として支援を行っています。

国の伝統的工芸品指定を受けた「天草陶磁器」の知名度は、天草大陶磁器展等の 開催により年々増加し、島内外からの誘客による経済効果につながっています。

市内の生産情報を把握する天草宝島物産公社が都市部等の企業と市内の生産者や事業者との取引仲介をすることで、少量多品目の天草産品でも必要量を確保することができ、新たな供給、流通の体制が整えられつつあります。また、天草産品等に関心が高く、取引が期待できる事業者やバイヤーを招致し、マーケットインの考え方を学び、生かすことで売れる商品づくり、販路拡大へつながり生産者の所得が向上しています。

市内で給食を提供する保育所、高齢者及び障がい者施設等へ天草産品の使用状況についてアンケート調査を実施。それぞれ62.18% 48.64% 58.36%が同産品を使用している現状であることが分かっています。

商店街は、商圏人口の減少に加え、郊外型の大型店の台頭などにより、休日の通行量が平成26年度と比較して半減し、顧客離れが顕著となっており、閉店による空き店舗も増加しています。

課題

窯元は平成10年の8窯元から平成29年は22窯元と増加はしているものの、若手陶芸家が少ないという課題があります。

天草宝島物産公社をとおして、天草産品の取引先や取引額は年々増加はしていますが、まだ安定的な需要と供給のバランスが取れずに商機を逸した事例もあります。 給食を提供する施設や、食材、加工品を扱う団体等に対し、天草産品の仕入れや考え方等について聞き取り調査を実施した中で、天草産品を使用しない理由を調査した結果、小売店に天草産コーナーがない、食材の旬の時期、仕入れ方法がわからないといった理由で使用率が低い状況です。また、県内他市に比べ地元での購買率は高いものの、若い年代になるほど地元産の購入にこだわらない傾向にあっています。

商店街や身近な店舗の閉店などにより、日用品の買い物に不便を感じている買い物弱者が増えていることから、既存店舗を閉めさせないための支援も検討する必要があります。

施策計画 I

6次産業化の推進による産品の付加価値向上と雇用拡大

計画内容

新商品の開発及び販路拡大により、天草産品の地産地消、地産他消を促進するほか、農林水産物の付加価値を高めるとともに、安価で取引されている規格外品等の価値も高め所得の向上と雇用の拡大など産業の活性化に繋げます。

成果指標名	単位	当初実績値 (2013年度)	実績値 (2017年度)	前期設定目標値 2022年度目標値
6次産業化の取り組みに より増加した雇用者数(累 計)	人	9	14	15 29
6次産業化の取り組みに より増加した新商品数(累 計)	品数	ı	14	- 55

施策計画 Ⅱ

天草陶磁器の産地化を推進

計画内容

国の伝統的工芸品の指定を受けた「天草陶磁器」を活用し、天草を「陶磁器の島」としてさらに発展させていくため、現在一部の窯元で構成されている組織を市内すべての窯元を巻き込んだ組織として再編するとともに、同組織が行う陶磁器の産地化、島外への出展、技術継承及び後継者育成へ取組みを支援します。

成果指標名	単位	当初実績値 (2013年度)	実績値 (2018年度)	前期設定目標值 2022年 度目標値
天草の陶磁器産業が活 性化していると感じる市	%	55.0	62.8	62.5
民の割合	70	33.0	02.8	70.0

施策計画 Ⅲ

もうかる産業づくりをめざした戦略的な販売

計画内容

天草産品の生産品目や生産量の把握を行い、生産者グループによる供給体制づく りへの取組みを支援するとともに、﨑津集落の世界文化遺産登録など他地域より優 位性が発揮できる天草の「地域ブランド」を活用した情報発信を積極的に行い、天草 産品の商談会、物産展等でのPRや販路開拓に取り組みます。

成果指標名	単位	当初実績値 (2015年度)	実績値 (2017年度)	前期設定目標値 2022年度目標値
取引につながった市内の事業者数(累計)	件数	47	77	- 152
取引につながった市外の事業者数(累計)	件数	51	166	320

施策計画 Ⅳ 市内での消費循環を拡大

計画内容

市内で生産される農林水産物や加工品、陶磁器、サービス等の域内消費を増やす ため、「地産地消行動計画」を策定し、販売現場等での天草産品コーナーの設置や売 り場面積拡大などに取り組むとともに、市民や事業者に対して、天草内の事業所での |消費・購入を促すよう周知・啓発に取り組みます。

成果指標名	単位	当初実績値 (2013年度)	実績値 (2018年度)	前期設定目標値 2022年 度目標値
市民一人当たりの地元産 農産物の取扱額	円/人	ı	10,774 ※2017年度	_ 12,200
地場産水産物を購入して いる人の割合	%	74.0	81.5	80.7 87.3
天草産木材利用促進によ る木材販売額	千円/年	10,692	11,083 ※2017年度	11,880 12,000
意識して市内の事業所を利用 している市民の割合	%		85.7	90.0

施策計画 V

|活気ある商店街づくり

計画内容

従来の来場者を増やす取組みから、個店の顧客増加に向けた取組みを進めます。 本渡地区においては、平成29年度に策定した「本渡中央商店街(銀天街)活性化ビ ジョン」に基づき、商店街振興組合や周辺の商友会等との協働による取組みを進めま す。

牛深地区においては、牛深港の周辺整備基本構想と連携した商店街の活性化を進 めます。

成果指標名	単位	当初実績値 (2016年度)	実績値 (2017年度)	前期設定目標值 2022年 度目標値
商店街の空き店舗率	%	21.7	21.9	- 15.0

- 商品開発された天草ブランドを市内外にアピールします。
- ・市内で開催されるイベントに積極的に参加します。
- 市内で生産された産品を積極的に購入します。
- 買い物は地元の商店を利用します。

観光・文化部門【経営方針:歴史と文化の薫り高い魅力あふれる観光のまちづくり】 政策 6. 観光の振興

政策がめざす姿

- 地域との連携により、天草ならではの多彩な観光商品が販売されています。
- 島民のあたたかいおもてなしの心でリピーター(天草のファン・応援団)が増えています。
- 豊かな食文化を活用した食の観光化が推進され、誘客に繋がっています。
- 広域的な視点での観光ルートを構築し、交流客の回遊性が高まっています。
- 交流人口が増加し、地域の誇りの醸成や、地域経済の活性化につながっています。
- 外国人の観光客が増加し、キリシタン文化や景観等の見どころを周遊しています。

現状

本市は、雲仙天草国立公園にも指定されている自然景観をはじめ、イルカウォッチングや化石採集等の体験、キリシタン文化や新鮮な農林水産物など、多彩な観光資源に恵まれているものの、旅行形態の変化やニーズの多様化、地域間競争の激しさが増す中で、平成29年の観光入込客数は約270万人となっており、そのうち、宿泊者数は約26万人と横ばいの傾向にあります。

そのような中、平成30年に﨑津集落の世界文化遺産登録により、同地域への観光客は増加していますが、この機会に訪れた来訪者の満足度を高めることで再訪率の向上やリピーター化、周遊による滞在時間の延長が図られるよう取り組んでいます。

課題

旅行形態の変化やニーズの多様化、地域間競争の激しさが増す中で、「観光地経営」の視点に立ち、多様な関係者の合意形成、体系的なデータ収集・分析に基づいた実効性の高い戦略を策定し、実行力のある組織による誘客、観光振興を図る必要性が高まっています。

人口の減少や少子高齢化、行政のスリム化が進む中で、継続性の高い観光振興を図るためには、観光による地域振興に対する住民の理解を深めることが必要です。そのために、観光事業者のリーダー育成をはじめ、住民の地域に対する愛着や誇りを醸成し、継続性の高い観光によるまちづくりを図る必要があります。

施策計画 I 地域資源を活かし、周遊・滞在・交流型観光につなげる「魅力づくり」

計画内容

平成30年の﨑津集落の世界文化遺産登録により、環境指標の数値上昇が予想されますが、一時的なブームに終わることがないよう、地域内に存在する多様な観光資源の掘り起こしと魅力の向上を図り、連携自治体・観光推進協議会と連携した広域周遊ルート、市内周遊ルートの提案、インバウンド誘客、教育旅行や大会・合宿誘致活動など、選ばれる観光地を目指した継続的な誘客活動に取り組みます。

成果指標名	単位	当初実績値 (2013年度)	実績値 (2017年度)	前期設定目標値 2022 年度目標値
宿泊観光客数(延べ人 数)	人/年	293,684	259,771	320,000

<関連計画>

天草市観光振興アクションプラン

観光を支える組織、戦略的な情報発信の「仕組みづくり」 施策計画 Ⅱ

計画内容

地域の稼ぐ力を引き出し、地域に対する誇りや愛着を醸成する「観光地経営」の視点 に立ち、多様な関係者の合意形成、各種データの収集・分析による戦略の策定と実行 力のある組織により観光振興を図ります。

また、旅行情報の入手手段の複雑多様化・専門化等により、従来からのマスメディア 中心の情報発信だけでは消費者に届きにくくなってきているため、来訪者データ等を効 率的かつ継続的に収集し、分析に基づいた手法により情報を効果的に発信します。

成果指標名	単位	当初実績値 (2013年度)	実績値 (2017年度)	前期設定目標値 2022年 度目標値
観光客データの収集(動向調査)	回	1	0	- 2

<関連計画>

天草市観光振興アクションプラン

施策計画 Ⅲ 永続的な観光振興のための「担い手づくり」

計画内容

人口の減少や少子高齢化、行政のスリム化が進む中で、継続性の高い観光振興を図 るためには、人材の育成や自律的かつ持続的に進んでいく環境の整備が必要です。 次世代リーダーの育成、観光に対する市民意識の高揚を図るため、関連団体等と連 携した観光ガイド等の育成や講座・研修の実施、住民向けの観光情報を発信し、併せ て、来訪者の満足度の向上のためにもおもてなし力の強化を図ります。

成果指標名	単位	当初実績値 (2013年度)	実績値 (2017年度)	前期設定目標値 2022年度目標値	
市民向け講座等の実施	回	þ	0	.	

<関連計画>

天草市観光振興アクションプラン

- ・天草島民総おもてなし運動で観光客への"おもてなしの心"を持ちます。
- 地域への愛着や誇りを持って、行事やイベントに参加し、天草の地域資源・観光素材 の情報発信を行います。
- 天草の魅力をお伝えできる観光ボランティアガイドとして活動します。

観光・文化部門【経営方針:歴史と文化の薫り高い魅力あふれる観光のまちづくり】 政策 7. 観光施設の充実

政策がめざす姿

- 拠点施設が充実し、崎津集落の世界遺産やイルカウォッチング等の認知度が高まっています。
- 拠点施設の配置が良くなり、回遊性も高まって、滞在時間が伸びています。

現状

﨑津集落の世界文化遺産登録により、観光客の増加が予想されるなか、道の駅構想を見据えた観光拠点施設の整備は進んでいますが、利用度が低い施設の廃止に向けた取り組みについては進捗が遅れています。そのため、施設の維持管理費の削減が困難な状況となっています。また、指定管理施設等築20年以上が経過する観光拠点施設も多く、老朽化に伴う大規模改修や集客力強化のための魅力向上の取組みが必要です。

課題

整備後20年以上が経過する施設において、耐用年数を超過した設備の修繕案件が増加するなか、施設の老朽化に伴う魅力低下や、人口減少による利用者数の減少が危惧されていることから、施設の大規模改修を計画するとともに、利用頻度が低い施設の廃止も同時に検討し、計画的な施設整備が求められています。

また、指定管理料が増加している指定管理施設においては、経営的視点に立った改善を行うとともに、利用料金や開館時間の見直しを行うなど経費削減に向けた抜本的な取組みが求められています。

施策計画 I 観光拠点施設の整備

計画内容

観光拠点施設については、観光客を市内各観光拠点へ周遊させる仕組みの一環として「道の駅」機能を付与した施設整備を進め、新たな魅力の提供及び積極的な情報発信を行うことで、観光客の滞在時間の延長を図ります。

また、施設の整備にあたっては、地域観光資源の持続的利活用についても検討を行います。

成果指標名	単位	当初実績値 (2013年度)	実績値 (2017年度)	前期設定目標值 2022年度目標値
観光拠点施設等への来 訪者数 [※]	人/年	0	31,618	50,000 200,000

※「観光拠点施設等への来訪者数」とは、第2次天草市総合計画策定以降に新たに整備された集客施設とする。

<関連計画>

天草市観光振興アクションプラン

施策計画 II 観光施設の活用

計画内容

老朽化した観光施設については、計画的に改修し、観光客の満足度向上を図ると共 に、利用度の低い施設については、見直しを検討します。

また、崎津集落の世界文化遺産登録により増加が見込まれる外国人観光客に対応するため、既存施設の改修に加え、多言語表記やピクトグラム等の充実を図ります。 なお、観光トイレにおいては、水洗化、洋式化及び多目的トイレの整備を推進します。

成果指標名	単位	当初実績値	実績値	前期設定目標值
八木111末七	平位	(2013年度)	(2017年度)	2022年度目標値
知业共和办利田老米※	人/年	062 110	000 006	1,000,000
観光施設の利用者数 [※]	\ \tag{\pi}	963,118	898,826	1,200,000

^{※「}観光施設の利用者数」とは、利用者の把握が可能な観光集客施設とする。

<関連計画>

天草市観光振興アクションプラン

- 観光客等の来訪者に天草の多様な魅力を伝えます。
- 観光トイレの美化に取り組みます。

観光・文化部門【経営方針:歴史と文化の薫り高い魅力あふれる観光のまちづくり】

政策 8. 世界遺産の保全

政策がめざす姿

- 世界遺産に登録された「天草の﨑津集落」に、多くの人が訪れています。
- 景観に対する保全意識が高まり、魅力あるまちなみとなっています。

現状

「天草の﨑津集落」を構成資産に含む「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」は、平成30年に世界文化遺産に登録されました。天草におけるキリシタンの歴史と文化を代表する地区として、地域振興や観光振興に寄与することが期待されています。「人類の宝」として、来訪者を受け入れながら価値を伝え、後世に引き継いで行かなければなりません。

課題

世界遺産登録は大きなニュースであり市民の多くが登録されたことを認識できていますが、世界遺産として認められた価値は、天草の先人たちにより培われた歴史と文化であることの理解が不足しています。

また、集落において人口減少、高齢化が進んでおり、空き家の増加や家屋の解体などにより、次第に集落景観を保全することが困難なものとなってきています。

施策計画 I 世界

世界遺産の保存管理の推進

計画内容

世界遺産としての価値を守り後世へ継承して行くためには、保護と活用にバランス良く取り組むことが重要です。市民一人ひとりが世界遺産としての価値を理解し、一人ひとりがその価値を情報発信できるようになることで、「住む人に誇りを、訪れる人に感動を」与えられるよう周知・啓発に努めます。

また、世界遺産を地域活性化に繋げるとともに、天草市景観計画の理念に基づき地域と行政が連携しながら集落景観の保全に積極的に取り組みます。

成果指標名	単位	当初実績値 (2014年度)	実績値 (2018年度)	前期設定目標值 2022年度目標値
﨑津集落の世界遺産の取り 組みを知っている市民の割合	%	86.1	85.3	92.0 97. &
﨑津集落の景観が保たれて いると感じる市民の割合	%	45.0	63.8	54.1 70.7

<関連計画>

﨑津・今富の文化的景観整備活用計画、天草市景観計画

- ・﨑津集落の素晴らしい文化的景観を、これからも保全・継承していきます。
- 世界遺産である﨑津集落を、広く市内外へPRします。
- ・ 﨑津集落を訪れる観光客に対し、おもてなしの心をもって接します。

観光・文化部門【経営方針:歴史と文化の薫り高い魅力あふれる観光のまちづくり】

政策 9 大地の遺産を活用した活動の推進

政策がめざす姿

- 天草の自然資源を活かした活動の総合的な情報発信が進み、交流人口が増加しています。
- 学術的に検証された成果は学校及び社会教育に活用され、市民の自然資源への興味 関心が高まり、自然環境の保護保全活動が活発化されています。

現状

天草の地質・地形などの自然遺産の活用を目的として、これまでジオパーク活動を行い、自然遺産への研究は、大きく進み、子どもたちへの教育やガイド活動の推進につながっています。天草地域の大地の遺産を住民、地域、行政などが協働して保全するとともに、学校教育や社会教育に活用し、また、地域の歴史・文化、観光資源を密接に連携させることにより魅力的なツーリズムの構築による天草の地域振興を図っています。

課題

天草ジオパークの取り組みが、交流人口の増加につながっていないことから令和2年3月31日をもって日本ジオパークネットワークから脱退し、天草ジオパークとしての活動を終了することになりましたが、これまで蓄積した研究や取り組みの成果を活かし、各種イベントでの周知や出前講座、講演会等を開催するとともに、各種媒体を活用した情報発信を強化していく必要があります。また、自然資源を活用した各種活動を行っている団体・個人・企業と連携し、学術的情報を加えることによってその活動の質の向上と、自然環境の保護保全活動の更なる推進を図っていく必要もあります。

施策計画 I

自然資源を活用した地域の魅力の向上と情報の発信

計画内容

これまで行ってきたジオパーク活動(教育支援活動や学術支援活動等)の財産を継続し活用するとともに、天草の自然資源を活用した活動を行っている団体、個人、企業と連携し、学術的見どころの情報提供、情報発信等での支援を行うなど、天草独自の新たな活動として、『海にうかぶ博物館 あまくさ』に取り組み、交流人口の更なる増加を目指します。また、新たに改築する御所浦白亜紀資料館を天草の自然資源教育活動及び地域の拠点施設の一つとして整備し、その機能を高めていきます。

成果指標名	単位	当初実績値 (2014年度)	実績値 (2018年度)	目標値 (2022年度)
天草自然資源に関する 拠点施設の入込客数	人/年	6,919	8,632	10,000

- 天草地域の自然環境や歴史・文化に関心を持ちます。
- 観光客等の来訪者に天草の多様な魅力を伝えます。

観光・文化部門【経営方針:歴史と文化の薫り高い魅力あふれる観光のまちづくり】 政策 10. 文化の振興

政策がめざす姿

- 多くの市民が、様々な芸術文化に触れ、親しんでいます。
- 様々な文化団体が自主的に、暮らしを豊かにする多様な文化活動を行っています。
- 市民が文化財を守り伝える意識を持ち、次世代へ継承されています。
- ・市民センターの利便性が良くなり、多くの市民が利用しています。
- 各資料館のネットワーク化により、来館者の利便性が向上しています。

現状

少子高齢化、価値観の多様化、経済的格差の拡大などにより、社会が著しく変化している中、心の豊かさを求める意識は年々高まっており、このような状況下、地域の文化振興は欠くことのできない要素となっています。文化団体等による多様な公演や展示事業が実施されている一方で、伝統芸能等については各地域で受け継がれているものの、過疎化・高齢化により継承が難しくなってきています。

文化財については、国・県・市合わせて206件の指定文化財等があります。文化財台帳の整備と適切な管理に努めていますが、風化や劣化等による修理、活用のための保存・整備が求められています。

課題

本市は広域にわたるため、市民全体に配慮した文化に触れる機会を充実させる必要があります。市民一人ひとりが文化に親しめるよう、伝統文化の継承や新たな文化芸術に触れ合う機会の提供が必要となります。そのためには、文化関係団体等と連携を密にし、文化・芸能活動の展示や発表の場を提供するなど、次世代育成のための支援を行う必要があります。

市が所有する文化財については、適切な管理・保存に努め、個人が所有する文化財についても、適切な管理・保存に努めるよう指導・助言をし、みんなの宝であることを市民全員が認識できる環境を構築しなければなりません。天草の宝である文化財を、次世代へ受け渡すことが市民一人ひとりの責任であり使命でもあります。

施策計画 I 文化活動の推進、歴史と文化の保存・継承

計画内容

天草市民センター及び牛深総合センターを天草市民の文化活動の拠点と位置づけ、文化関係団体への支援を行うとともに、次世代を担う子ども達に、一流の芸術に触れる機会の提供を行います。

また、貴重なフィルム映画が鑑賞できる映画館の安定的な保存により、映像文化を継承します。

さらに、棚底城跡の整備をはじめ、身近な史跡や伝統芸能などを活用し、体験や郷土学習を充実させることにより、文化財の保存・整備・活用・継承に努めます。

成果指標名	単位	当初実績値 (2014年度)	実績値 (2018年度)	前期設定目標値 2022年 度目標値
市の芸術文化事業に触れる機会があると思う市 民の割合	%	24.9	31.9	36.0 4 7.1

〈関連計画〉

天草市教育振興基本計画

施策計画 エ 文化施設の整備・活用

計画内容

天草市民の文化活動の拠点となる天草市民センター及び牛深総合センターは、施 設の延命化と利便性向上のため、計画的に施設整備・改修を行います。

天草キリシタン館をはじめとする各資料館の展示内容を充実させると共に、各資料 館及び関係団体との連携を図り、入館者数の増加に努めます。 また、各資料館の在り方や管理体制の見直しを検討・協議します。

成果指標名	単位	当初実績値 (2014年度)	実績値 (2017年度)	前期設定目標值 2022年度目標値
市民会館利用者数	人/年	215,,901	287,163	250,000 288,000
資料館入館者数	人/年	148,774	118,459	153,000 158,000

〈関連計画〉

天草市教育振興基本計画

- ・文化活動に積極的に参加します。
- 市の歴史や伝統文化、文化財に関心を持ち、後世へ継承します。
- 天草地域の自然環境や歴史-文化に関心を持ちます。

地域振興部門【経営方針:みんなで築く活力あるまちづくり】

政策 11. 協働によるまちづくりの推進

政策がめざす姿

- 地域の個性や特色を活かした独自のまちづくり活動が行われています。
- 地域リーダーを中心に地域の課題解決が図られています。
- 地域の活動拠点が整備され、まちづくり活動が活発に行われています。
- NPOや市民活動団体等の活動が活発になっています。
- 多くの市民がまちづくり活動に参画し、自分たちがまちづくりの主役であることを 認識しています。
- 市民と行政が協働してまちづくりに取り組んでいます。

現状

住民自治の確立と自立した地域づくりを進めるため、旧市町単位10地域の「まちづくり協議会」及び51の「地区振興会」に、地域づくりの助成金など財政的支援を行うことにより、地域コミュニティ活動を推進し、地域の自立促進に努めています。

また、まちづくりチャレンジ支援交付金を活用した地域の特性を活かした独自の地域活性化事業への取組みのほか、市民活動支援センターによる団体等へのサポートを行っています。しかしながら、地域課題の解決や地域資源等を活用した新たな取組みは一部の地区や団体のみで実施されており、まちづくり協議会、地区振興会及びNPO法人等の市民活動団体が相互交流、連携を図りながら、一体化した市民協働によるまちづくりの推進を図る必要があります。

課題

これらに対応するためには、行政はもとより、各まちづくり協議会、地区振興会及び NPO法人等の市民活動団体を中心に市民一人ひとりがまちづくりに参加することで、 各々の得意分野や地域の特性を活かし、自助・共助・公助を基本としながら協力・連 携した、協働による活力あるまちづくりの推進に取り組み、地域の将来や課題をともに 考え解決していく必要があります。

施策計画 I

市民協働の推進

計画内容

「まちづくり協議会」及び「地区振興会」の活動並びに「行政区」や「NPO法人等の市民活動団体」と行政が連携して、市民協働による地域課題解決へ向けた様々な活動を推進し、特色のある独自のまちづくり活動への支援を行います。

単位	当初実績値 (2014年度)	実績値 (2018年度)	前期設定目標値 2022年度目標値
%	30.3	52.6	46.3 62.3
%	65.4	76.7	70.4 82.8
%	16.8	29.3	29.7 42.5
	%	単位 (2014年度) % 30.3 % 65.4	単位 (2014年度) (2018年度) % 30.3 52.6 % 65.4 76.7

施策計画 Ⅱ 協働を担う人材及び団体の育成・支援

計画内容

地域づくりを担う人材は、まちづくりを推進する上で必要不可欠であり、地域を担う人材の有無によって地域の活性化や活動内容に大きな違いがでてくるため、まちづくり協議会、地区振興会及びNPO法人等の市民活動団体が相互交流などを図りながら協働を担う人材及び団体の育成・支援に取り組みます。

成果指標名	単位	当初実績値 (2014年度)	実績値 (2018年度)	前期設定目標值 2022年度目標値
過去1年間に地域活動(ボランティア含む)に役員や	%	42.4	38.1	46.4
スタッフとして参加したこと がある市民の割合	/0	72.7	30.1	53.4

施策計画 エコミュニティ施設の整備・活用の推進

計画内容

地域のコミュニティ活動の拠点となるコミュニティセンターの整備・活用については、 地域住民による自主的な管理運営を促進するとともに、その維持管理について支援を 行います。また、老朽化した施設が多くを占めていることから、施設の整備の方向性を 検討するために「コミュニティセンター改築等に関する基準」や地域の情勢などを踏ま えて計画的に進めます。

成果指標名	単位	当初実績値 (2014年度)	実績値 (2018年度)	前期設定目標値 2022年度目標値
コミュニティセンター利用申 請件数	件/年	25,462 ※2013年度	30,677 ※2017年度	25,970 32,059
コミュニティセンターを利用 したことがある市民の割合	%	43.4	44.7	47.4 51.4
地区コミュニティセンターの 施設に対して満足している 市民の割合	%	ſ	41.4	36.7 51.6

- 市の広報紙などをかかさず読み、地域の情報に関心を持ちます。
- 町内会活動などに積極的に参加します。
- まちづくりの主役として、地域づくりの会議などに積極的に参加します。
- 積極的に市民活動(ボランティア)に参加します。
- 市民やNPO等の団体の活動について、積極的に情報の収集と提供を行います。
- NPO等の団体は、市民や市と連携して地域課題の解決に努めます。

地域振興部門【経営方針:みんなで築く活力あるまちづくり】

政策 12. 男女共同参画社会の推進

政策がめざす姿

- 男女が対等な立場であらゆる分野に参画しています。
- 女性も男性も性別に関わりなく、その能力と個性を発揮しています。
- 市民や団体、行政が連携して、男女共同参画社会が実現されています。

現状

家族の形態や地域社会の多様化など、生活環境は急速に変化している中、市民の活動・交流の場、情報の受発信の場、学びの場の拠点施設として、男女共同参画センター(愛称「ぽぽらす」)を開設し、市民参画による男女共同参画社会の推進に努めています。その成果として、意識の面で平等感や固定的性別役割分担意識に変化が見られ、少しずつ改善傾向にあります。しかしながら、家庭や職場、学校、地域社会などで男女共同参画を実践できない、実感できていない場面も依然としてあります。

課題

家庭や職場、学校、地域社会において、依然として根深く残っている固定的性別役割分担意識を解消するとともに、女性に対するあらゆる暴力の根絶などへの対応は急務です。また、審議会等への委員の登用による政策方針決定過程への女性の参画の拡大など、性別に関わりなく多様な人材が活躍できる社会を推進していく必要があります。そのためには、市民参画による男女共同参画社会の推進を図ることが、経済や地域の活性化の起爆剤にもなり得ること、人々が抱えるあらゆる分野の問題の解決につながっていることを伝えていく必要があります。

施策計画 I 男女共同参画の推進

計画内容

男女が互いに人権を尊重し、個性や能力に応じて活躍できるように、男女共同参画の意識づくりと性別役割分担意識の解消を図るための教育・啓発に取り組みます。また、女性の活躍を進めるために人材育成の充実を図り、政策・方針決定の場へ女性の登用を促進することで、男女共同参画社会の実現を目指します。

成果指標名	単位	当初実績値 (2014年度)	実績値 (2018年度)	前期設定目標値 2022年度目標値
性別によって役割を固定 してはいけないと考える 市民の割合	%	44.7	65.5	59.0 75.0

〈関連計画〉

天草市男女共同参画計画

- 性別役割分担意識をなくし、性別にとらわれることなく人としての能力を発揮します。
- 多様な人々と交流することで学びを深め、男女共同参画社会をつくります。

地域振興部門【経営方針:みんなで築く活力あるまちづくり】

政策 13. スポーツの推進

政策がめざす姿

- 幼児・児童・生徒が、生涯にわたりスポーツや運動を楽しむための魅力あるスポーツ 環境が整っています。
- 市民が心身ともに健康で、豊かな生活を送るためのライフスタイルに対応できるスポーツ環境が整っています。
- 競技力の優れた選手や指導者が養成され、スポーツ競技力が向上しています。
- ハイレベルなスポーツ大会の開催等により、市民のスポーツに対する関心が高まっています。
- すべての市民に配慮した、日常的にスポーツが楽しめる施設環境が整っています。

現状

市民の年齢や体力に応じたスポーツ環境の提供や取組みを進めるとともに、天草マラソン、トライアスロン大会の開催等には、多くの市民が運営及びボランティア等で参加し、競技スポーツ、生涯スポーツに対する意識の高揚も図られています。しかし、平成29年11月に本市が実施した市政に対するアンケート調査では「定期的(週1日以上)にスポーツを行っている人」は31.4%で、平成29年の31.3%より0.1%上昇していますが、市スポーツ推進計画の目標である65%を下回っています。

課題

切児期の運動習慣の定着、小学校運動部活動の社会体育移行に伴うスポーツ環境の整備に加え、多様化する市民ニーズなど、すべての市民のライフスタイルに応じたスポーツ環境の整備が求められています。また、競技種目団体の組織強化や指導者の養成、優れた選手の育成・支援などのほか、スポーツ実施率向上のための新たなアプローチや、即効性のある取り組みを実施する必要があります。さらに、スポーツ施設については、各施設とも経年劣化により修繕箇所が年々増加してきており、計画的な改修やスポーツニーズに対応した施設整備を行う必要があります。

施策計画 Ι 子どもスポーツの振興

計画内容

幼児・児童・生徒が生涯にわたりスポーツや運動へ関わるため、その基礎となる幼児期の運動習慣の定着や小学校運動部活動の社会体育移行に伴う新たなスポーツ環境の充実を図ります。保育所(園)・幼稚園・小中学校・高等学校と地域・家庭との連携により、スポーツや運動に親しむ機会を増やし、子どもたちが身体を動かすことが楽しい、面白いと実感できるような魅力ある環境を整備します。

Ga. U				a transfer to the control of the con
成果指標名	単位	当初実績値 (2013年度)	実績値 (2017年度)	前期設定目標値 2022年 度目標値
小学生(5年生)の週3回以 上のスポーツ実施率	%	76.0	68.8	76.0 78.0
中学生(2年生)の週3回以 上のスポーツ実施率	%	84.0	78.2	85.0 86.0
高校生(2年生)の週3回以 上のスポーツ実施率	%	75.0	75.0	75.0 77.0
小学生(1年生)における新 体カテスト数値が県平均を 上回る項目数	項目	ij	3	- 8

<関連計画>

天草市スポーツ推進計画

施策計画 Ⅱ 生涯スポーツの振興

計画内容

市民が心身ともに健康で豊かな生活を送るために、それぞれのライフスタイルに対応したスポーツ環境の充実を図ります。また、全ての市民が「する人」「観る人」「携わる人」のいずれかでスポーツに関わり、生活の中にスポーツを取り入れ、いつでも、どこでも、誰でも、生涯に渡ってスポーツと親しむことができるよう普及・啓発に取り組みます。

成果指標名	単位	当初実績値 (2014年度)	実績値 (2018年度)	前期設定目標値 2022 年度目標値
週1回以上のスポーツ実施 率	%	32.2	48.7	45.5 65.0

<関連計画>

天草市スポーツ推進計画

施策計画 Ⅲ 競技・交流スポーツの振興

計画内容

競技スポーツの競技力の向上と競技人口の底辺拡大は、相乗効果となって本市全体のスポーツ振興へとつながります。そのため、各種競技団体の組織強化及び指導者の養成を図り、全国レベルで活躍できる優れた選手を育成・支援する取り組みを推進します。

併せて、スポーツ大会や合宿誘致を積極的に行い、地域経済の活性化や交流人口の 拡大に繋げます。

成果指標名	単位	当初実績値 (2013年度)	実績値 (2017年度)	前期設定目標値 2022 年度目標値
マラソン等の参加者数	人/年	7,673	4,492	7,800 6,300
県民体育祭出場者数	人/年	ı	292	420 440
スポーツ大会・合宿誘致者数	人/年	ı	7,866	7,790 8,550

<関連計画>

天草市スポーツ推進計画

施策計画 Ⅳ スポーツ施設の充実

計画内容

施設整備については、多くの施設の老朽化が進む中で、施設の劣化状況等を把握し、計画的な改修等を実施して長寿命化を図るとともに、1地区1施設を原則に施設の整理統廃合を行いながら、利用者の利便性と安全性の向上を図ります。また、多様化するスポーツニーズに応じた新たな施設環境が求められていることから、整備計画に基づき取り組みます。

成果指標名	単位	当初実績値 (2013年度)	実績値 (2017年度)	前期設定目標值 2022 年度目標値
社会体育施設の年間利 用者数	人/年	581,030	597,400	585,000 647,600

<関連計画>

天草市スポーツ推進計画

- スポーツ教室等へ積極的に参加し、ボランティア等でスポーツ振興を支えます。
- 地域行事で利用する運動広場等の維持管理を、地域でボランティアにより行います。

地域振興部門【経営方針:みんなで築く活力あるまちづくり】

政策 14. 移住・定住の促進

政策がめざす姿

- ・天草に魅力を感じ、移住し定住する都市住民が増えています。
- 都市住民との交流により地域活性化が図られています。
- 空き家等情報バンクの登録推進により、空き家が有効活用されています。

現状

都市住民の田舎暮らしに対する関心は高く、移住・定住サポートセンターの設置や、移住・定住コーディネータによるワンストップでのきめ細やかな相談体制の整備、空き家等情報バンクの登録推進、定住促進奨励金、空き家活用事業補助金の交付などに取り組み、平成20年度から平成29年度末までの実績として233世帯、469人の方が本市へ移住しています。特にここ数年は30~40代の子育て世代の移住者が増加しています。

また、移住・定住希望者の移住に向けた調査や田舎暮らしお試し住宅として、移住促進施設を市の施設として設置し、管理運営を行っています。併せて、移住相談会への参加や天草暮らしセミナーの開催、天草暮らし体験ツアーなどを実施し、天草の魅力を発信しています。

課題

移住者の増加に伴い、移住希望者の住まいや就労などに対するニーズは様々で、移住相談の内容も多様化しているため、移住・定住サポートセンターの相談体制の充実が必要です。

空き家等情報バンクについては、移住希望者に対応できる物件数としては十分ではないため、引き続き登録物件の増加を推進する必要があります。

移住後、早期に地域に溶け込むことができ、定住につながるよう支援する必要があります。

施策計画 I 天草の魅力を活かした交流と移住・定住の推進

計画内容

移住・定住サポートセンターにおいて、住まい・仕事・暮らし・情報発信など、多様なニーズに対応したきめ細やかな相談体制や、移住後の地域におけるサポート体制の充実を図るとともに、定住促進奨励金や空き家活用事業補助金の交付並びに、移住促進施設等の活用を図ります。また、住まい・仕事・暮らし・情報発信など関係部署と連携して移住・定住に向けた支援を行います。さらに、天草の魅力を活かした市単独の天草セミナーや体験ツアーの開催及び、関係人口の創出などによる交流事業に取組み、天草への移住・定住を促進します。

成果指標名	単位	当初実績値 (2013年度)	実績値 (2017年度)	前期設定目標値 2022年度目標値
移住・定住に関する問い合わせ件数	件/年	79	250	95 300

<関連計画>

天草市移住,定住促進計画

- 利用していない空き家を、空き家等情報バンクに登録します。
- 移住者と積極的に交流を行います。
- 定住につながるよう、地域での暮らしをサポートします。

地域振興部門【経営方針:みんなで築く活力あるまちづくり】

政策 15. 公共交通による移動利便性の向上

政策がめざす姿

- ・通学・通院など利用者の生活圏・行動に合った路線バス等が運行されています。
- 離島航路が確保され、本市と他県を結ぶフェリー航路が維持されています。
- 安全で安定した運航が確保され、航空路が維持されています。

現状

市内には、路線バス、旅客船、航空機などの多様な公共交通機関が運行(運航)されており、通学・通院、買い物など、市民の生活交通手段として需要な役割を担っています。

また、経済・観光・地域振興や市内で不足している医師を確保する観点からも、必要不可欠なものです。

しかしながら、急速に進む人口減少・少子高齢化の進展による利用者の減少、運行経費の増大等により公共交通を取り巻く環境は一段と厳しい現状にあります。

課題

人口減少及び高齢化社会の進展により、路線バスを主とする各種公共交通利用者の減少が見込まれる中、地域ニーズに即した効率的・効果的な交通モードへの見直しを行い、持続可能な公共交通網の構築が必要です。

そのような中、平成29年度に策定したまちづくり・観光振興の視点も取り入れた「天草市地域公共交通網形成計画」に基づき、路線バスの幹線・支線の役割を明確にし、また住民、交通事業者及び行政が連携した各種公共交通施策を実施することにより公共交通による移動利便性の向上を図る必要があります。

施策計画 I

多様な交通モードの連携による持続可能性のある公共交通 網・まちづくり(各拠点の魅力向上・機能維持)に寄与する公共 交通網の形成

計画内容

陸海空すべての交通モードを有する本市では、多様な交通モードの連携による効率的・効果的な公共交通網を整備し、より多くの市民の移動利便性向上を図ることが重要です。また、各拠点(広域拠点:旧本渡市、地域拠点:旧牛深市、生活拠点:旧町単位)における拠点内・拠点間移動をニーズに応じた公共交通で確保します。

成果指標名	単位	当初実績値 (2013年度)	実績値 (2017年度)	前期設定目標值 2022年度目標値
路線バス等の利用者数	人/年	438,275	397,014	429,000 397,000
航路の利用者数	人/年	353,513	343,813	352,000 352,000
航空路の利用者数	人/年	76,387	79,593	80,000 82.000

<関連計画>

天草市地域公共交通網形成計画

施策計画 Ⅱ 行政・交通事業者・市民等の協働による公共交通の利用促進

計画内容

公共交通の持続可能性を高めるには、利用者の維持・増加を図る必要があることから「乗って守る公共交通」の方針の下、自治体、交通事業者、住民が連携した利用促進策を推進します。

成果指標名	単位	当初実績値 (2013年度)	実績値 (2017年度)	前期設定目標値 2022年度目標値
「おでかけ促進事業」、「乗り 方教室等」に参加した市民 の数	人	þ	0	1,000

<関連計画>

天草市地域公共交通網形成計画

施策計画 Ⅲ 交通不便地域対策の推進

計画内容

今後、急激な人口減少及び高齢化の著しい進行が見込まれる中、移動制約者等 (高齢者・学生等)の移動手段を確保するなど、交通不便地域対策が重要課題であ り、公共交通機関(路線バス、コミュニティバス等)利用による移動手段の確保を基 本とするが、公共交通を利用できない方への対応として福祉所管部門との連携を行 い、効率的・効果的な移動支援策を講じます。

成果指標名	単位	当初実績値 (2013年度)	実績値 (2017年度)	前期設定目標値 2022年度目標値
交通不便地域数	数	ı	86	- 76

<関連計画>

天草市地域公共交通網形成計画

- 公共交通を積極的に利用します。
- 事業者は、安心・安全に運行(運航)します。

教育部門【経営方針:未来を拓く人を育むまちづくり】

政策 16. 生涯学習の推進

政策がめざす姿

- 市民の二一ズや地域の特色を活かした講座が開設されています。
- 市民一人ひとりが、生涯を通じていつでも、どこでも、だれとでも自由に学べる 生涯学習環境が整備されています。
- 市民の生涯学習の拠点として図書館サービスが充実しています。
- 市民が学んだ知識や経験が、家庭教育や地域教育、青少年健全育成等に活かされています。

現状

平成25年度から学習に特化した旧市町ごと10カ所の地区公民館を中心として生涯学習の振興に努め、地域ごとに特色ある事業を展開しています。また、公民館による各種講座のほか、社会教育指導員による家庭教育講座や市職員による出前講座等、市民へ広く学習の機会を提供しています。

図書館では、各図書館等の利便性の向上を図るために各支所の空きスペース等への移転作業を進め、移動図書館車によるコミュニティセンター等への配本や拠点での貸出を行う等、市民の読書意欲の向上のため、図書館サービスの充実を図っています。

社会教育施設では、施設の老朽化が顕著になっており、中央図書館、本渡地区公民館等については、複合施設の建設を進めています。

課題

生涯を通じ、学ぶことへの市民の関心や意欲は高いものの、参加者の固定化という偏りが見られ、多くの市民が参加するためには、生涯学習を「個人的な生きがいや充実のみならず人間として生きていくうえで、社会を存続させていくために必要な学習」として広く推進していく必要があります。そして、学んだ知識や経験が家庭や地域教育、青少年教育などに活かされ、市民の生きがいとなる生涯学習社会の構築が求められています。

また、将来を担う子どもたちを育成するため、地域と学校の連携・協働による地域学校協働活動を推進する必要があります。

さらに、公共施設等総合管理計画の中の個別施設計画や施設ごとの管理運営 方針に基づき、必要な修繕、改修等を行うとともに、管理運営方法の見直しを進め る必要があります。

施策計画 I 生涯学習の推進

計画内容

市民のさまざまな学習要求に応え、生涯にわたり学べる環境を実現するため、関係機関、団体と連携を図り、それぞれのライフステージに応じた学習機会の提供に努めます。

特に、青少年の健全育成は大きな課題として捉え、関係機関、団体と連携し、青少年の健全育成を行うとともに、関係団体への各種の支援を行います。また、地域の将来を担う子どもたちの育成のため、地域と学校の連携・協働による地域学校協働活動を推進します。

さらに、老朽化が著しい社会教育施設については、複合施設建設を進めるとともに、施設毎の管理運営方針等に基づき、計画的な修繕、改修及び管理運営を行います。

成果指標名	単位	当初実績値 (2014年度)	実績値 (2018年度)	前期設定目標值 2022年度目標値
生涯学習環境(学習機会 や学習情報)に対して満 足している市民の割合	%	17.5	26.4	33.3 49.1
青少年が健全に成長して いると思う市民の割合	%	58.1	67.3	67.3 76.5

<関連計画>

天草市教育振興基本計画

- 各種講座や体験活動などの生涯学習事業に積極的に参加します。
- 自ら学び、その学んだ知識や経験を、家庭教育や青少年の健全育成、地域学校協働活動等に活用します。

教育部門【経営方針:未来を拓く人を育むまちづくり】

政策 17. 人権教育及び人権啓発の推進

政策がめざす姿

- すべての人の人権が尊重され、尊厳をもって自分らしく生きることができる社会となっています。
- 性別等に関係なく、あらゆる人が個性と能力を発揮できる社会となっています。

現状

本市では、人権擁護の意識を高め、平和で明るい地域社会の実現に寄与することを目的として「天草市人権擁護に関する条例」を制定しました。さらに、行政、学校、企業・民間団体及び市民がお互いに協力しながら、人権教育・啓発を進める共通の指針として、「天草市人権教育・啓発基本計画」を策定しています。

この基本計画に基づいて、人権研修会、人権出前講座、人権に関する講演会等を実施するほか、市広報紙を利用した啓発活動を行っています。

また、天草人権擁護委員との連携で人権に係る相談業務等を行っています。

課題

人権問題は、個人の思い込みや偏見によって引き起こされています。いまだ出身地、年齢、心身の障がい、性別、国籍、学歴、思想、職業、病歴などを理由とする偏見や先入観に基づく差別が存在しています。さらに近年ではインターネット、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)等による人権侵害事件も発生し、大きな問題となっています。

市民が自らの課題として主体的に取り組んでいけるように、人権学習や相談体制の整備を進め、すべての人々の個人の尊厳が守られる地域社会を築くことが求められています。

施策計画 Ⅰ 人権教育及び人権啓発の推進

計画内容

市民の人権意識の高揚を図り、就学前教育、学校教育、社会教育などの様々な場と機会を通じて、また県、天草郡市人権教育推進連絡協議会や人権擁護委員協議会等関係団体と連携し、様々な問題に対する人権教育及び人権啓発を推進します。さらに、一人ひとりの人権が尊重され明るく住み良いまちを創り上げるため、市民とともに取組みを進めます。

成果指標名	単位	当初実績値 (2014年度)	実績値 (2018年度)	前期設定目標值 2022年度目標値
人権が尊重されていると 感じる市民の割合	%	26.6	37.1	41.6 56.6

<関連計画>

天草市教育振興基本計画、天草市人権教育,啓発基本計画

- 人権の意義や人権尊重の重要性について、正しく理解・認識します。
- 人権意識の高揚を日常生活の中で自らの態度や行動で示し、地域を明るくします。
- 市民自らが主体的に人権研修会等に参加します。

教育部門【経営方針:未来を拓く人を育むまちづくり】 政策 18. 学校教育の充実

政策がめざす姿

- 児童・生徒が意欲的に学習に取り組むための教育内容が充実しています。
- 児童・生徒の誰もが能力に応じて十分な教育を受けることができる支援体制が整っています。
- 児童・生徒の英語のコミュニケーション能力が、向上しています。
- 児童・生徒が、規則正しい生活や望ましい食習慣により、元気に学校生活を送っています。
- 児童・生徒が、安全で心地よく学習できる環境が整備されています。
- 地元の豊かな食材を活用し、安全・安心でおいしい給食が提供されています。

現状

学校教育を取り巻く環境は、いじめや不登校への対応、特別な支援を必要とする児童生徒への支援の充実、さらには教職員の多忙化など、社会背景や地域の実情によってさまざまであり、教育に対するニーズは多様化、複雑化しています。知(確かな学力)、徳(豊かな人間性)、体(健康・体力)の調和のとれた「生きる力」を育み、将来の社会を担う人材を育成するには、子どもの学習意欲を向上させるとともに、基礎的な学力や自ら学び考える力を伸ばしていくことが求められています。

学校施設の充実においては、児童・生徒が心地よく学習できる環境を整備するため、空調設備整備事業など大規模改造事業を計画的に推進しています。

学校給食においては、安全・安心な給食が求められております。また、安定的に給食を提供するため、更新時期が到来した調理機器は、計画的に更新をする必要があります。

課題

学校教育には、変化の激しい社会に主体的に対応できる能力の育成が求められています。また、文化的・歴史的背景に由来する価値観や特性の差異を乗り越え、他者を理解し共存共栄を図るため、グローバル人材の育成を目指していく必要があります。

そのために、学ぶ意欲の向上、学ぶ習慣の定着、体験活動の充実などを通した確かな学力の充実が求められています。また、地域との連携、豊かな人間性の育成、たくましく生きるための健康や体力の増進が必要です。

また、公共施設等総合管理計画の中の個別施設計画に基づき、学校施設の改修等を行い施設の長寿命化に向けた取組みを行う必要があります。

学校給食では、食育の推進、地元産食材の使用、食物アレルギーへの対応等、安全・安心な対応が求められています。

施策計画 I 次世代の担い手を育む

計画内容

学校教育において身に付けるべき資質・能力として、①生きて働く「知識・技能」の習得、②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養の三点が重要な柱となります。これらを身に付けさせるため、学びの本質として重要となる「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善を行います。

また、道徳教育や人権教育を推進し、思いやりの心や規範意識を持った豊かな心を育てるとともに、いじめ・不登校の未然防止及び解消に向けた取組みを推進します。さらに、幼稚園・保育所等・小学校・中学校の交流・連携や特別支援教育の充実を図り、子どもの発達や学びの連続性の確保と適切な支援に努めます。

成果指標名	単位	当初実績値 (2013年度)	実績値 (2017年度)	前期設定目標値 2022年度目標値
全国学力・学習状況調査 の全国平均正答率を上 回る項目数	項目数	6	4	全8 全5
学校を楽しいと感じる児 童・生徒の割合	%	92.7	93.5	95.0 95.0
中学3年生における英検 3級レベル相当の生徒の 割合	%	ı	36.6	- 50.0

<関連計画>

天草市教育振興基本計画

施策計画 Ⅱ 教育を支える環境づくりの推進

計画内容

子どもたちが、よりよい教育環境の中で効率的な教育が受けられるようにするため、学校のICT環境の整備や学校施設の大規模改造事業等を推進します。

また、小・中学校施設の危険箇所、老朽箇所を把握し、計画的に修繕・改修を行うことで、安全・安心な教育環境の実現を図ります。

成果指標名	単位	当初実績値 (2014年度)	実績値 (2017年度)	前期設定目標值 2022年度目標值
学校を過ごしやすいと感 じる児童・生徒の割合	%	64.3	78.0	74.0 83.7

<関連計画>

天草市教育振興基本計画

施策計画 Ⅲ 学校給食の充実

計画内容

文部科学省が定める「学校給食衛生管理基準」に適合し、安全・安心な給食を提供するため、共同調理場の改築や改修を行い、児童生徒数の減少に対応するため共同調理場の統廃合を推進します。

また、地元生産者や関係機関と連携し、地場産の食材を活用して、地元の料理を取り入れた地産地消を推進します。

成果指標名	単位	当初実績値 (2013年度)	実績値 (2017年度)	前期設定目標值 2022年度目標值
品目ベースの地産地消率 (天草産食材の品目)	%	27.2	24.1	28.5 30.0

<関連計画>

天草市教育振興基本計画

- 学校教育に対する理解を深め、協力・連携し開かれた学校づくりに参画します。
- 子どもにあいさつ・食事のマナーなどの基本的生活習慣を身につけさせます。

教育部門【経営方針:未来を拓く人を育むまちづくり】

政策 19. 大学等との連携

政策がめざす姿

- 大学等の人的・知的資源を活用した地域の活性化や課題解決が行われています。
- 大学等と市民とが地域で共に学び、地域を担う人材が育っています。

現状

本市においては、人口の減少や少子・高齢化、基幹産業の不振への対応など、様々な課題に対して高度化、専門化した対応が求められています。このような状況の中で、大学等の持つ人的・知的資源を活用し、多様化・複雑化する地域の課題解決や地域を担う人材を育成するため、本市では熊本大学・熊本県立大学・崇城大学・忠清大学校・京都大学・東京大学・長崎大学の7つの大学と人材育成、観光振興・産業振興、保健・医療・福祉等の様々な分野において、それぞれ包括的連携協定等を締結しています。

課題

本市と大学等と積極的に情報交換を図りながら、大学等の持つ人的・知的資源を活用して、協働によるまちづくりの取り組みを更に進めていくとともに、大学と地域団体等との連携に向けて取り組んでいく必要があります。

また、大学以外の研究機関やNPO等と連携することにより、地域の課題解決への取り組みも進めていく必要があります。さらに、地域の課題解決やまちづくりの中心となる地域を担う人材を育成していくために、今後は大学等と市民とが地域の中で共に学ぶ機会を増やしていく必要があります。

施策計画 I 大学等と連携した人材育成と専門的支援

計画内容

地域の活性化や課題解決など、地域と大学等とが協働及び連携する機会を創出します。また、市民のニーズに対応した学びの場を提供し、大学等と市民とが地域の中で共に学ぶ機会を提供することで、地域の課題解決やまちづくりの中心となる地域を担う人材を育成します。

成果指標名	単位	当初実績値	実績値	前期設定目標値
及未刊宗石	+ 12	(2014年度)	(2017年度)	2022年度目標値
大学等との連携事業の参加者で内容等に満足して	%	55.1	76.6	63.3
いる市民の割合	70	ஆவா	7/0.0	0.88

- 地域の課題に対し、大学等の人的・知的資源を積極的に活用します。
- 大学等による出前講座や講演会等を活用し、自ら進んで学習します。

教育部門【経営方針:未来を拓く人を育むまちづくり】

政策 20. 国際化の推進

政策がめざす姿

- 多くの市民が、多様な人種や文化、言語等を理解し、共有しています。
- 市民レベルにおいても、外国人との交流が盛んに行われています。

現状

本市においては、外国人居住者などに対してホームページで多言語による情報発信を行っていますが、「文化や習慣の違い」、「言葉が分からない」「日常生活での案内窓口が不足している」などの課題があがっています。

また、国際感覚豊かな人材を育成するため、姉妹都市である米国カリフォルニア州エンシニタス市や韓国忠清北道にある忠清大学校との交流機会を提供しています。しかし、10代(学生)や国際交流に関心が高い一部の市民の参加になっているため、「国際交流や大学等と連携した事業に参加する機会があると感じる」市民の割合が低くなっています。

課題

﨑津集落の世界遺産登録により、今後は外国人の交流人口の増加が見込まれる中、市民が外国人と直接接する機会が増えることが予想されます。このため、姉妹都市や外国の大学との様々な交流を通じて、国際感覚豊かな人材を育成するとともに、積極的な多文化共生に対する意識啓発や市民が外国人と交流しやすい環境づくりを進めていく必要があります。

また、一方で外国人居住者が、安心して生活できる環境の整備も求められています。

施策計画 I 多様な文化を共有する社会の充実

計画内容

市民が、外国人と交流しやすい環境や外国人居住者が安心して生活できる環境を整備するため、市民団体等と連携し、多文化共生の意識啓発を行うとともに、市民との協働による外国人との交流機会を提供します。また、案内窓口の充実に取組むなど、外国人が天草に住む環境を整備します。

成果指標名	単位	当初実績値 (2014年度)	実績値 (2017年度)	前期設定目標值 2022年度目標值
外国人居住者の満足して いる割合	%	46.8	52.4	56.4 66.0

施策計画 Ⅱ 国際化に対応した人づくり

計画内容

姉妹都市(米国)エンシニタス市や韓国・忠清大学校との交流等を通じ、多文化を理解し、国際化に対応する広い視野と寛容な精神をもった人材を育成するため、市民の相互訪問を支援するとともに、市民レベルの国際交流活動を支援し、市民の自主的な活動の促進を図ります。

成果指標名	単位	当初実績値	実績値	前期設定目標値
八木111宗石	<u> </u>	(2014年度)	(2017年度)	2022年度目標値
姉妹都市交流等の参加	04	75.0	100.0	84.8
者の満足している割合	%	75.8	100.0	100.0

★市民ができること

• 多様な文化・習慣の理解に努めるため、交流の場や講演会等に参加します。